

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow バージョン 1.2 ユーザーズ ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow の概要	5
新機能.....	6
追加リソース.....	6
章 2: OpenManage Integration with ServiceNow のライセンス要件	8
章 3: 必要なユーザー権限	9
章 4: OpenManage Integration for ServiceNow ダッシュボード	11
章 5: ServiceNow での OpenManage Enterprise インスタンスの追加	15
OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成.....	15
SSL 証明書.....	16
OpenManage Enterprise 接続プロファイルの編集.....	16
OpenManage Enterprise 接続プロファイルの削除.....	17
章 6: デバイスのインベントリと監視	18
Dell EMC PowerEdge サーバーの基本的なサーバー インベントリ情報.....	20
Dell EMC PowerEdge シャーシの基本的なインベントリ情報.....	22
Dell EMC PowerEdge サーバーの詳細インベントリ情報.....	23
シャーシの Dell EMC シャーシ詳細インベントリ情報.....	30
サーバーのデバイス正常性の同期.....	35
並列キューの構成.....	36
サーバーの変換マップの有効化または無効化.....	36
インポート セット テーブル.....	36
シャーシの変換マップの有効化または無効化.....	37
アラート管理：アラートおよび対応する OpenManage Enterprise イベントの表示.....	37
OME アラートのイベントの確認.....	38
イベント管理 - すべてのイベントの表示.....	38
インシデント管理：OpenManage Enterprise イベント用に作成されたインシデントの表示と管理.....	39
アラート関連ルールの有効化または無効化.....	39
アラート管理ルールの有効化または無効化.....	40
デバイス イベントの同期.....	40
章 7: ServiceNow での SupportAssist Enterprise インスタンスの追加	41
SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの作成.....	41
SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの編集.....	42
SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの削除.....	42
章 8: 事故管理 - SupportAssist Enterprise および SupportAssist Enterprise プラグイン ケースのインシデントを表示および監視する	43
インシデント優先度の変更.....	44
SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの影響度と緊急性の値の変更.....	44
特定インシデントの影響度と緊急性の値の変更.....	44

複数インシデントの影響度と緊急性の値の変更.....	45
インシデント管理 : SupportAssist Enterprise プラグイン ケースのインシデントの表示と監視.....	45
章 9: プロパティ テーブル : フィールドの定義.....	47
章 10: トラブルシューティング.....	48
章 11: OpenManage Integration with ServiceNow に関する Dell EMC サポートへの問い合わせ.....	50
章 12: Dell EMC へのお問い合わせ.....	51
章 13: Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス.....	52

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow の概要

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow は、エンタープライズレベルの組織がそのサービスと運用管理プロセス間のギャップを埋めることで、ビジネスクリティカルな運用の効率を向上できるよう支援します。これは、ServiceNow プラットフォーム内のネイティブアプリケーションであり、OpenManage Enterprise (インフラストラクチャ管理機能) と ServiceNow (サービスおよび運用管理機能) の間にシームレスなインターフェイスを提供します。OpenManage Enterprise は、1対多のシステム管理コンソールで、PowerEdge モジュラー型インフラストラクチャ、ラック、タワーサーバーに包括的で統一されたライフサイクル管理を実現します。OpenManage Integration は、OpenManage Enterprise と ServiceNow 間でデバイスインベントリー情報とイベントを転送する自動化機能を提供します。これにより、サービス管理チームは、ビジネスサービスと IT インフラストラクチャの正常性に影響を与える問題を迅速に検出、診断、解決することができます。

また、OpenManage Integration with ServiceNow は SupportAssist Enterprise と統合されており、ServiceNow インスタンス内から Dell EMC サポートチームに対して開かれているサポートケースを表示し、追跡できます。SupportAssist Enterprise は、ハードウェアの問題が実際に発生する前にプロアクティブに検出し、テクニカルサポートチームに PowerEdge サーバー、ストレージ、ネットワークデバイスについて警告するアプリケーションです。この統合により、運用およびサービス管理チームは PowerEdge サーバーに対して生成されたテクニカルサポートチケットを管理し、インシデントから解決までのチケットの進捗状況を追跡できます。

Dell EMC OpenManage Enterprise

OpenManage Enterprise は、Dell EMC サーバ、シャーシ、ストレージ、エンタープライズネットワーク上のネットワークスイッチの包括的なビューを提供するシステム管理および監視アプリケーションです。Web ベースの 1 対多システム管理アプリケーションである OpenManage Enterprise には、次のような機能があります。

- データセンター環境でのデバイスの検出および監視。
- デバイスのグループ化とデバイスの管理。
- ハードウェアインベントリーおよびコンプライアンスレポートの表示
- デバイスの正常性の監視。
- デバイスファームウェアバージョンの管理、およびシステムアップデートとリモートタスクの実行。
- システムアラートおよびアラートポリシーの表示と管理。

Dell EMC OpenManage Enterprise の詳細については、[Dell.com/OpenManageManuals](https://www.dell.com/openmanage/manuals) の「Dell OpenManage Enterprise」ページにあるマニュアルを参照してください。

Dell EMC SupportAssist Enterprise

SupportAssist Enterprise は、Dell EMC サーバー、ストレージ、ネットワークデバイスのテクニカルサポートを自動化します。デバイスを監視し、発生する可能性のあるハードウェアの問題をプロアクティブに検出します。ハードウェアの問題が検出されると、SupportAssist Enterprise はテクニカルサポートのサポートケースを自動的に開き、Eメール通知を送信します。

SupportAssist Enterprise の詳細については、[Dell.com/ServiceabilityTools](https://www.dell.com/serviceability/tools) の「Serviceability Tools」ページで入手できるマニュアルを参照してください。

OpenManage Integration with ServiceNow の主な機能

- ネイティブの ServiceNow アプリケーションのサポート：OpenManage Integration with ServiceNow は、ServiceNow インスタンスにインストールして展開できます。
- OpenManage Enterprise の統合
 - CMDB 統合：
 - 1つまたは複数の OpenManage Enterprise インスタンスから ServiceNow Configuration Management Database (CMDB) への PowerEdge サーバーおよびシャーシのインベントリー詳細の定期的およびオンデマンド同期。

- 1つまたは複数の OpenManage Enterprise インスタンスから ServiceNow CMDB にインポートされたすべての PowerEdge サーバーおよびシャーシの構成アイテム (CI) の自動作成。
 - イベント管理とインシデント管理の統合 :
 - 1つまたは複数の OpenManage Enterprise インスタンスから ServiceNow インスタンスへのイベントの定期的およびオンデマンド同期。
 - ServiceNow の CI とのイベント (重要および警告) およびアラートの自動マッピング。
 - 重要および警告アラートに対するインシデントの自動作成。
- SupportAssist Enterprise の統合 : 監視対象サーバーの1つまたは複数の SupportAssist Enterprise インスタンスから ServiceNow インスタンスにサポート ケースをインポートし、対応するサポート ケースのインシデントを自動的に作成します。
- OpenManage Enterprise SupportAssist プラグインの統合 : 監視対象サーバーの1つまたは複数の SupportAssist プラグイン インスタンスから ServiceNow インスタンスにサポート ケースをインポートし、対応するサポート ケースのインシデントを自動的に作成します。
- OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise アプリケーションによって提供される REST API を使用して、OpenManage Integration はサーバーおよびシャーシのインベントリー情報、イベント、Dell EMC サポート ケースを取得します。

トピック :

- [新機能](#)
- [追加リソース](#)

新機能

- インベントリー、イベント、サーバー正常性、SAE プラグイン ケースの収集、重大度ベースのインシデントの作成、個別の OME 接続プロファイルに対するイベントの確認のスケジュールされたジョブの時間間隔の設定のサポート。
- 個々の SAE 接続プロファイルに対して SAE ケース収集のジョブをスケジュールする時間を設定するためのサポート。
- デバイス、正常性、作成されたイベントまたはアラートの概要、作成されたインシデント、テクニカル サポート ケースの数を示すダッシュボードのサポート。
- サーバーまたはシャーシのデバイス イベント同期のサポート。
- Orlando、Paris、Quebec バージョンの ServiceNow のサポート。
- サーバーのコンポーネント正常性モニタリングのサポート。
- サーバー ライセンスの詳細のサポート。
- 複数の OpenManage Enterprise SupportAssist プラグインとの統合のサポート。
- 構成管理データベース (CMDB) の統合 :
 - 詳細なシャーシ インベントリーの定期的かつオンデマンド同期 (例 : シャーシ電源装置、シャーシ ファン リスト、シャーシ RAID コントローラーなど)
 - シャーシおよび関連するシャーシ コンポーネントの構成アイテム (CI) と CI 関係の自動作成
 - PowerEdge シャーシ情報を格納するために標準提供の cmdb_ci_chassis_server を使用
- PowerEdge シャーシのサポート : PowerEdge FX2、PowerEdge M1000e、PowerEdge VRTX、PowerEdge MX7000
- イベント管理プラグインなしでアップデート セットのアップロードをサポート。

追加リソース

表 1. 追加リソース

文書	説明	入手先
<i>Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow インストール ガイド</i>	OpenManage Integration with ServiceNow のインストールと設定について記述されています。	1. Dell.com/OpenManageManuals にアクセスします。 2. [[Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow]] をクリックし、必要なアプリケーションのバージョンを選択します。
<i>Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow リリース ノート</i>	OpenManage Integration with ServiceNow の新機能、既知の問題、回避策に関する情報が記載されています。	3. [マニュアルおよび文書] をクリックして、該当のドキュメントにアクセスします。
<i>Dell EMC OpenManage Enterprise ユーザーズ ガイド</i>	OpenManage Enterprise のインストールおよび使用方法に関する情報が記載されています。	1. Dell.com/OpenManageManuals にアクセスします。
<i>Dell EMC OpenManage Enterprise および</i>	Representational State Transfer (REST) API を使用した OpenManage Enterprise の統合に関	

表 1. 追加リソース (続き)

文書	説明	入手先
<i>OpenManage Enterprise - Modular エディション RESTful API ガイド</i>	する情報、および一般的なタスクを実行するための REST API の使用例が記載されています。	<ol style="list-style-type: none"> [Dell EMC OpenManage Enterprise] をクリックし、必要なアプリケーションのバージョンを選択します。 [マニュアルおよび文書] をクリックして、該当のドキュメントにアクセスします。
<i>Dell EMC SupportAssist Enterprise ユーザーズ ガイド</i>	SupportAssist Enterprise のインストール、設定、使用およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。	Dell.com/ServiceabilityTools
<i>ServiceNow のマニュアル</i>	ServiceNow アプリケーションの使用方法の詳細について参照してください。	https://www.servicenow.com/

OpenManage Integration with ServiceNow の ライセンス要件

ServiceNow でデバイスのアラートとサポート ケースを監視するには、OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスがターゲット PowerEdge サーバーにインストールされている必要があります。

ターゲット サーバーにライセンスを導入するには、次の手順を実行します。

- ライセンスは、サーバーの購入時、またはセールス担当者にお問い合わせで、購入することができます。
- 購入したライセンスは、Dell.com/support/retail/lkm のソフトウェア ライセンス管理ポータルからダウンロードできます。
- ダウンロードしたライセンスは、それぞれの iDRAC コンソールにインポートして、ターゲット サーバーに導入できます。データ センター内の複数のサーバーにライセンスを導入するには、Dell EMC License Manager アプリケーションを使用します。Dell EMC License Manager を使用したライセンス導入の詳細については、[Dell EMC License Manager の製品ページ](#)を参照してください。

メモ: 評価版ライセンス ユーザーは、ServiceNow プラグインが中断なく機能するように、ライセンスを更新するまたは永久ライセンスに移動するようにしてください。

必要なユーザー権限

OpenManage Integration with ServiceNow アプリケーションは、ServiceNow インスタンスに次のユーザー ロールのセットをインストールします。

- x_310922_omisnow.OMISNOW Operator (OpenManage Integration オペレーター ロール)。
- x_310922_omisnow.OMISNOW User (OpenManage Integration ユーザー ロール)。

適切なロールと権限が ServiceNow ユーザーに割り当てられており、OpenManage Integration with ServiceNow アプリケーションが使用できることを確認します。必要に応じて、ServiceNow で追加ユーザーを作成し、そのユーザーに OpenManage Integration オペレーター ロールとユーザー ロールを割り当てることができます。

表 2. 必要なユーザー権限

OpenManage Integration with ServiceNow の機能	ServiceNow 管理者	OpenManage Integration with ServiceNow オペレーター	OpenManage Integration with ServiceNow ユーザー
ServiceNow への OpenManage Integration with ServiceNow アップデートセットのアップロード	許可	未許可	未許可
OpenManage Integration with ServiceNow の connector.jar を MID サーバーに展開する	許可	未許可	未許可
OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成、変更、または削除	許可	許可	未許可
SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの作成、変更、または削除	許可	許可	未許可
OpenManage Enterprise インスタンスからのサーバーおよびシャーシのインベントリー詳細の取得	許可	許可	未許可
OpenManage Enterprise からのすべてのサーバーおよびシャーシのイベントの取得	許可	許可	未許可
SupportAssist Enterprise からのケースの取得	許可	許可	未許可
ServiceNow でのアプリケーション ログの表示	許可	未許可	未許可
OME インベントリー収集、OME イベント収集、サーバー正常性の収集、SAE プラグイン ケースの収集、SAE ケースの収集間隔のスケジュール	許可	許可	未許可
OpenManage Enterprise から取得されたイベン	許可	許可	許可

表 2. 必要なユーザー権限 (続き)

OpenManage Integration with ServiceNow の機能	ServiceNow 管理者	OpenManage Integration with ServiceNow オペレーター	OpenManage Integration with ServiceNow ユーザー
トに対して作成されたアラートとインシデントの表示			
アラートとインシデントの更新	許可	許可	未許可
アラート管理ルールの有効化または無効化	許可	未許可	未許可
アラート相関ルールの有効化または無効化	許可	未許可	未許可
ServiceNow からの OpenManage Integration アプリケーションの削除	許可	未許可	未許可
アラート相関ルールの作成または編集	許可	未許可	未許可
OME および SAE グループへのインシデントの割り当て	許可	許可	未許可
変換マップの有効化と無効化	許可	許可	未許可
パラレルキュー、基本インベントリ要求あたりのデバイス、詳細なインベントリ要求あたりのデバイスの構成	許可	許可	未許可
インシデントが作成された後の OME イベントの確認	許可	許可	未許可
作業メモにアプリケーション ログを記録する	許可	許可	未許可
インバウンドの入力ビューの表示、設定、削除	許可	未許可	未許可
ステーjing テーブルの表示、構成、削除	許可	未許可	未許可
システム スケジューラ	許可	未許可	未許可
OpenManage デバイス 正常性同期	許可	許可	未許可
SupportAssist プラグインのケース同期	許可	許可	未許可
ダッシュボードの表示と編集	許可	許可	許可 (表示のみ)

OpenManage Integration for ServiceNow ダッシュボード

このトピックでは、デバイスの総数、デバイス タイプ、デバイス モデル、接続プロファイルについて説明します。ダッシュボードでは、OME と SAE のインシデントと全体的な情報を迅速に表示することができます。

ダッシュボードを表示するには、次の手順を実行します。

1. ServiceNow ページのフィルター ナビゲーション タブで、[Dell EMC OpenManage Integration] と入力します。
2. [ダッシュボード] ドロップダウンから [OMISNOW-Dashboard] をクリックします。

ダッシュボードのホーム ページには、4つのタブが表示されます。

- [概要]: このセクションでは、登録済みのシャーシの合計数、登録済みのサーバーの合計数、アラート、デバイス タイプ、アラートの重大度、デバイス モデルに関する全体的な情報を提供します。数値をクリックすると、詳細が表示されます。概要セクションで提供される情報は次のとおりです。
 - a. [デバイスの総数]: 登録済みデバイスのレコードの合計数についての情報を提供します。数字をクリックすると、作成されたデバイスのリストが表示されます。リスト ビューに表示される詳細は次のとおりです。
 - [名前]
 - [製造元]
 - [モデル ID]
 - [オペレーティング システム]
 - [OS バージョン]
 - [説明]
 - [監視対象]
 - [ステータス]
 - [シャーシのサービス タグ]
 - [エクスプレス サービス コード]
 - [エクスプレス サービス グループ]
 - [OMEip]
 - [id]
 - [クラス]
 - b. [アラートの総数]: 作成されたアラートの全体が表示されます。数値をクリックすると、アラートの総数の詳細を表示できます。
 - c. [サーバー タイプ]: このデバイス タイプ情報は、登録されたデバイスに基づいて厳選され、理解を深めるために円グラフで表示されます。
 - d. [アラートの重大度]: このセクションでは、アラート数の全体情報が棒グラフで表示されます。
 - e. [サーバーおよびシャーシ モデル]: このセクションでは、全体情報がデバイス モデルの円グラフで表示されます。
 - f. [OME コレクション プロファイル]: このセクションでは、作成された OME 接続プロファイルの数について説明します。接続で SupportAssist プラグインが有効にされているかどうかを確認することもできます。
 - g. [SAE コレクション プロファイル]: このセクションでは、作成された SAE 接続プロファイルの数について説明します。
- [アラート]: このセクションでは、以下が表示されます。
 - [アラートの総数]: 数値をクリックすると、アラートが次の詳細情報とともに表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [グループ]
 - c. [重大度]
 - d. [優先度グループ]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [ソース]
 - h. [説明]
 - i. [ノード]
 - j. [構成項目]
 - k. [メトリック名]

- l. [メンテナンス]
- [重要アラート]: このセクションでは、重要アラートの総数が表示されます。番号をクリックすると、詳細が表示されます。
 - [番号]
 - [グループ]
 - [重大度]
 - [優先度グループ]
 - [優先順位]
 - [状態]
 - [ソース]
 - [説明]
 - [ノード]
 - [構成項目]
 - [メトリック名]
 - [メンテナンス]
- [警告アラート]: このセクションでは、警告アラートの総数が表示されます。番号をクリックすると、詳細が表示されます。
 - [番号]
 - [グループ]
 - [重大度]
 - [優先度グループ]
 - [優先順位]
 - [状態]
 - [ソース]
 - [説明]
 - [ノード]
 - [構成項目]
 - [メトリック名]
 - [メンテナンス]
- [アラート グループ - 重大度]: このセクションでは、アラートの重大度に基づいて情報を提供し、棒グラフで分離します。
- [上位 10 個のアクティブ アラート]: アクティブなアラートについての情報が棒グラフで表示されます。
- [アラート トレンド]: 日付に基づいてアラート数に関する情報を提供します。
- [OME インシデント]: このセクションでは、以下が表示されます。
 - [インシデントの総数]: この数には、未解決および解決されたインシデントを含むすべてのインシデントが含まれます。数値をクリックすると、詳細が表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [未解決]
 - c. [簡単な説明]
 - d. [呼び出し元]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [割り当てグループ]
 - h. [割り当て先]
 - i. [アップデート済み]
 - j. [更新者]
 - [未解決インシデント]: 未解決のインシデントの総数を表示します。数値をクリックすると、詳細が表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [未解決]
 - c. [簡単な説明]
 - d. [呼び出し元]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [割り当てグループ]
 - h. [割り当て先]
 - i. [アップデート済み]
 - j. [更新者]

- [未解決 - 未割り当て]: 未解決および未割り当てのインシデントについての情報を提供します。数値をクリックすると、詳細が表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [未解決]
 - c. [簡単な説明]
 - d. [呼び出し元]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [割り当てグループ]
 - h. [割り当て先]
 - i. [アップデート済み]
 - j. [更新者]
- [解決済みインシデント]: 解決されたインシデントの総数を表示します。数値をクリックすると、詳細が表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [未解決]
 - c. [簡単な説明]
 - d. [呼び出し元]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [割り当てグループ]
 - h. [割り当て先]
 - i. [アップデート済み]
 - j. [更新者]
- [インシデント優先度]: 優先度ごとにインシデントの詳細を提供します。
- [平均解決時間]: インシデントがクローズされるまでの平均解決時間を提供します。
- [SAE インシデント]: このセクションでは、以下が表示されます。
 - [インシデントの総数]: この数には、未解決および解決されたインシデントを含むすべてのインシデントが含まれます。数値をクリックすると、詳細が表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [未解決]
 - c. [簡単な説明]
 - d. [呼び出し元]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [割り当てグループ]
 - h. [割り当て先]
 - i. [アップデート済み]
 - j. [更新者]
 - [未解決インシデント]: 未解決のインシデントの総数を表示します。数値をクリックすると、詳細が表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [未解決]
 - c. [簡単な説明]
 - d. [呼び出し元]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [割り当てグループ]
 - h. [割り当て先]
 - i. [アップデート済み]
 - j. [更新者]
 - [解決済みインシデント]: 解決されたインシデントの総数を表示します。数値をクリックすると、詳細が表示されます。
 - a. [番号]
 - b. [未解決]
 - c. [簡単な説明]
 - d. [呼び出し元]
 - e. [優先順位]
 - f. [状態]
 - g. [割り当てグループ]

h. [割り当て先]

i. [アップデート済み]

j. [更新者]

- [インシデント優先度]: 優先度ごとにインシデントの詳細を提供します。
- [平均解決時間]: インシデントがクローズされるまでの平均解決時間を提供します。

① **メモ:** [プロパティ] で [イベント管理] タブを有効にすると、アラートが表示されます。

① **メモ:** アラート ダッシュボードの情報には、週の始まりから同期されたデータが表示されます。

ServiceNow での OpenManage Enterprise インスタンスの追加

データセンターで使用可能な 1 つまたは複数の OpenManage Enterprise インスタンスからインベントリを取得することができます。複数の接続プロファイルがある場合は、OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise の接続プロファイルの数に基づいて、MID サーバーを設定します。OpenManage Enterprise プロファイルごとに 1 つの MID サーバーを使用することをお勧めします。

インベントリとイベントを取得するには、ServiceNow インスタンスの OpenManage Enterprise インスタンスごとに OpenManage Enterprise 接続プロファイルを作成する必要があります。

- OpenManage Enterprise 接続プロファイルを作成するには、[[OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成](#)、p. 15] を参照してください。
- OpenManage Enterprise 接続プロファイルを編集するには、[[OpenManage Enterprise 接続プロファイルの編集](#)、p. 16] を参照してください。
- OpenManage Enterprise 接続プロファイルを削除するには、[[OpenManage Enterprise 接続プロファイルの削除](#)、p. 17] を参照してください。

トピック：

- [OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成](#)
- [SSL 証明書](#)
- [OpenManage Enterprise 接続プロファイルの編集](#)
- [OpenManage Enterprise 接続プロファイルの削除](#)

OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成

OpenManage Enterprise 接続プロファイルを作成する前に、次の操作を完了しておいてください。

- Dell EMC サポート サイトからアップデートセットをインポートして、ServiceNow に OpenManage Integration with ServiceNow アプリケーションをインストールする。詳細については、サポートサイトの『[Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow インストール ガイド](#)』を参照してください。
- データセンター環境に、管理、計測、および検出 (MID) サーバーを 1 台以上インストールして設定する。
- OpenManage Integration with ServiceNow コネクター.jar ファイルを MID サーバーに導入する。
- 必要なユーザー権限 [必要なユーザー権限](#)、p. 9 を参照してください。

OpenManage Enterprise 接続プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションフィルターに [Dell EMC OpenManage Integration] と入力してから、[接続プロファイル] で [OpenManage Enterprise 接続プロファイル] を選択します。
2. [新規] をクリックします。
3. 接続プロファイル名を入力します。
4. 次の OpenManage Enterprise アプライアンスの情報を入力します。
 - IP アドレスまたは FQDN アドレス
 - ① **メモ:** OpenManage Enterprise アプライアンスの IP アドレスまたは FQDN を使用して、OpenManage Enterprise 接続プロファイルを作成していることを確認します。技術的な制限により、OMISNOW では 1 台のアプライアンスに対する 2 つの重複接続プロファイル (片方で IP アドレスを使用し、もう片方で FQDN を使用) の作成が阻止されません。
 - ユーザー名
 - ① **メモ:** ユーザー名のみを入力します。先頭にドメイン名が付いたユーザー名を入力することはできません。
 - パスワード
 - SupportAssist プラグイン
 入力した OpenManage Enterprise の詳細情報は、ServiceNow インスタンスとの接続の検証に使用されます。
5. MID サーバーを選択するには、[検索] アイコンをクリックし、リストから構成済みの MID サーバーを選択します。

6. ServiceNow インスタンスと OpenManage Enterprise アプライアンスとの間の接続が確立されていることを確認するには、[接続をテスト] をクリックします。
7. OpenManage Enterprise への接続が正常に行われた場合は、[送信] をクリックします。

メモ: [名前] フィールドにユーザー名のみを入力したことを確認します。ユーザー名の先頭にドメイン名が付いている場合、テスト接続は失敗します。

これで、OpenManage Enterprise 接続プロファイルが作成され、[OpenManage Enterprise 接続プロファイル] ページにリストされます。

メモ: テスト接続を実行せずに [送信] をクリックすると、接続をテストするように警告するメッセージが表示されます。このメッセージで [このページで追加ダイアログを作成しない] チェック ボックスをオンにしないでください。このオプションが選択されている場合、次回に接続プロファイルを作成すると、このメッセージは表示されず、次の Web ブラウザーでは接続プロファイルを作成することができなくなります。

- Internet Explorer
- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox

8. 管理者は、レコードを提出する前に [プロパティ] の下で、[OME インベントリーの収集]、[OME イベントの収集]、[サーバー正常性の収集]、[SAE プラグイン ケースの収集]、[OME の承認イベント]、[インシデントの作業メモのログ イベント承認メッセージ]、[重要アラート]、[警告アラート] の時間をアップデートできます。
9. 別の OpenManage Enterprise インスタンスの接続プロファイルを作成するには、手順 1~7 を繰り返します。
10. 新しい OMECP を作成するときには、[証明書チェック] オプションをチェックして [SSL 証明書チェック] をクリックできます。

SSL 証明書

このトピックでは、SSL 証明書の仕組みと使用されているテクノロジーについて洞察を提供します。

SSL 証明書チェックもまたデジタル証明書です。これは、ブラウザとサーバー間の通信の安全性を確保するために Netscape によって導入された革新的なテクノロジーです。

仕組み


HTTPS が有効化された Web サイトを開くようにユーザーがブラウザに要求した場合、以下のようになります。

- ブラウザーがユーザーの要求を受け入れ、HTTPS が有効になっている Web サイトへの接続を試行します。
- 次に、ブラウザは認識のためにサーバーと通信します。
- サーバーは SSL 証明書のコピーをブラウザに送信します。
- ブラウザーは SSL コンテンツを読み取り、証明書情報を検査します。
- 証明書情報が有効でない場合、ブラウザは通信を終了し、**接続がセキュアでない**とのエラー メッセージを表示します。
- 証明書情報が有効な場合は、SSL 証明書を受け入れたことを示すメッセージがサーバーに送信されます。
- SSL 暗号化された通信セッションを開始するために、サーバーはブラウザに確認応答を送信します。
- 正常に接続した後、HTTPS が有効になっている Web サイトにアクセスできるようになります。

OMISNOW では、ユーザーは、OME によって指定された SSL 証明書チェックを選択するオプションがあります。[証明書チェック] オプションをチェックし、[SSL 証明書チェック] をクリックすると、証明書のサムプリントが表示されます。[トラストストアパス] と [トラストストアパスワード] を入力するプロンプトが表示されます。ユーザーが確認すると、ユーザーのトラストストアに同じ証明書がインストールされ、それ以降の OME の呼び出しで使用されます。

OpenManage Enterprise 接続プロファイルの編集

1. [OpenManage Enterprise 接続プロファイル] ページで、接続プロファイルを選択します。
2. 次のフィールドを編集できます。
 - OpenManage Enterprise アプライアンスの [IP アドレス] または [FQDN]。
 - OpenManage Enterprise アプライアンスの [ユーザー名] と [パスワード]。

 **メモ:** OpenManage Enterprise の [IP アドレス]、[FQDN]、[ユーザー名] を変更した場合は、パスワードを再入力して、[接続をテスト] をクリックする必要があります。


3. 管理者は、レコードを送信する前に [プロパティ] の下で、[OME インベントリーの収集]、[OME イベントの収集]、[サーバー正常性の収集]、[SAE プラグイン ケースの収集] の期間を編集できます。[OME の承認イベント]、[インシデントの作業メモのログ イベント承認メッセージ]、[重要アラート]、[警告アラート] を有効にすることもできます。
4. [アップデート] をクリックします。

アップデートされた接続プロファイルは、[OpenManage Enterprise 接続プロファイル] ページにリストされます。

OpenManage Enterprise 接続プロファイルの削除

1. [[OpenManage Enterprise 接続プロファイル]] ページの [[名前]] 列で、接続プロファイルをクリックします。
2. ServiceNow から接続プロファイルを削除するには、[[削除]] を選択します。
3. [[確認]] ダイアログ ボックスで、[[削除]] を選択します。

OpenManage Enterprise 接続プロファイルが ServiceNow から削除されます。

 **メモ:** 既存の OpenManage Enterprise 接続プロファイルを削除すると、デバイスと関連イベントは ServiceNow で監視されません。

デバイスのインベントリーと監視

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow には、OpenManage Enterprise でインベントリーされたすべてのデバイスを ServiceNow に同期する機能があります。デバイスに関するイベントも OpenManage Enterprise から取得されます。ServiceNow でイベントを効率的に監視するために、対応インシデントが ServiceNow で作成されます。

前提条件：

- OpenManage Enterprise で検出されたデバイスを監視し、イベントとアラートの定期的かつオンデマンド同期を監視するには、デバイスに Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスがインストールされていることを確認します。ライセンスは、サーバーの購入時、またはセールス担当者にお問い合わせで、購入することができます。購入したライセンスは、Dell.com/support/retail/lkm のソフトウェアライセンス管理ポータルからダウンロードできます。
- 必要なユーザー権限があることを確認します。[必要なユーザー権限](#)、p. 9 を参照してください。
- OpenManage Enterprise 接続プロファイルが ServiceNow で作成されます。[OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成](#)、p. 15 を参照してください。

Dell EMC PowerEdge サーバーを監視するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[接続プロファイル] で [OpenManage Enterprise の接続プロファイル] を選択します。
2. デバイス インベントリーの収集を実行するには、リストから1つ以上の接続プロファイルを選択してから、[選択した行でアクション] > [OME インベントリー同期] を選択します。

オンデマンド OpenManage Enterprise インベントリーの同期を初めて完了すると、スケジュールされたインベントリー同期が有効になり、毎日実行されます。デフォルトでは、インベントリーの同期のスケジュールは、[OME 接続プロファイル] の [OME インベントリーの収集] フィールドで1日に設定されています。インベントリーの収集スケジュールを変更するには、フィールドをアップデートします。

OpenManage Enterprise で検出されたデバイスのインベントリーの詳細は、ServiceNow インスタンスで同期されます。

メモ: カスタム テーブルを使用してデバイスを監視している場合、同一のデバイス セットで同期操作を複数回実行すると、重複したレコードが作成されます。

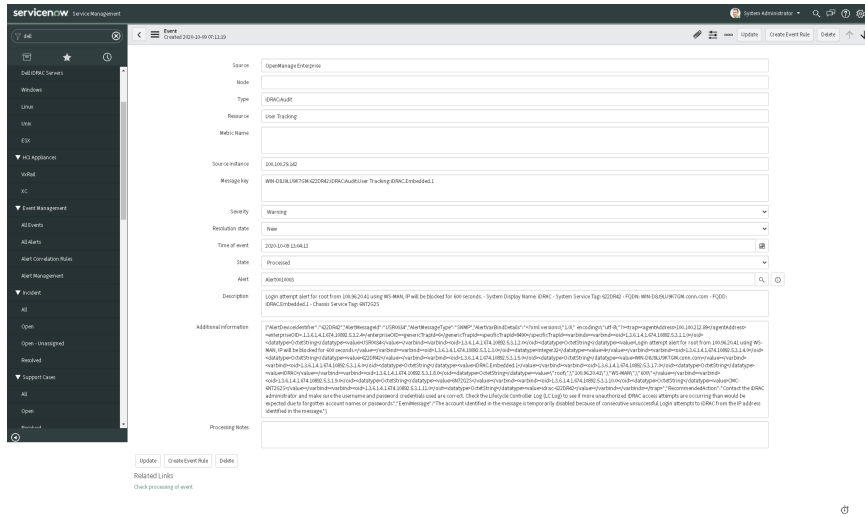
3. PowerEdge サーバーのインベントリー情報を表示するには、ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、次の操作を実行します。
 - すべての PowerEdge サーバーのインベントリー情報を表示するには、[サーバー] > [Dell iDRAC サーバー] を選択します。
 - オペレーティングシステムに基づいてデバイスのインベントリー情報を表示するには、[サーバー] の下で次のいずれかを選択します。
 - [Windows]
 - [Linux]
 - [UNIX]
 - [ESX]
 - VxRail や Dell EMC XC Series などのハイパーコンバージドインフラストラクチャ アプライアンスで PowerEdge サーバーのインベントリー情報を表示するには、[HCI アプライアンス] で、次のいずれかを選択します。
 - [VxRail]
 - [XC]

ServiceNow で表示できる Dell iDRAC サーバーのインベントリーの詳細については、「[Dell EMC PowerEdge サーバーの基本的なサーバー インベントリー情報](#)」、p. 20」を参照してください。

- OpenManage Enterprise からイベントを同期するには、ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[OpenManage Enterprise 接続プロファイル] を選択します。

メモ: デバイス イベントが ServiceNow の OpenManage Enterprise から同期される前に、オンデマンド デバイス イベント リーの収集を実行する必要があります。

- すべてのイベントを取得するには、リストから接続プロファイルを選択してから、[選択した行でアクション] > [OME イベント同期] の順に選択します。初回のオンデマンド イベント リー同期後に、スケジュールされたイベント同期が有効になります。デフォルトでは、イベント同期のスケジュールは、OME 接続プロファイルの下の OME イベント収集フィールドで 15 分に設定されています。イベント収集スケジュールを変更するには、このフィールドを更新します。PowerEdge サーバーによって生成されたイベントは、ServiceNow インスタンスと同期されます。
- イベントを表示するには、ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力します。
- [イベント管理] で、[すべてのイベント] を選択します。
イベントがリストされ、関連する重大度に基づいてイベントをフィルターにかけることができます。イベントは Service Now のサーバー CI にマッピングされています。イベントにマッピングされたサーバー CI は、[構成項目] 列に表示されます。



8. ServiceNow によってイベント用に作成された対応するアラートを表示するには、ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[イベント管理] で、[すべてのアラート] を選択します。
9. ServiceNow によってイベント用に作成された対応するインシデントを表示するには、ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[インシデント] を選択します。
アラートとインシデントの詳細については、「アラート管理：アラートおよび対応する OpenManage Enterprise イベントの表示、p. 37」と「インシデント管理：OpenManage Enterprise イベント用に作成されたインシデントの表示と管理、p. 39」を参照してください。

インベントリおよびイベントの同期タスクのログを表示するには、ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[システム ログ] で [アプリケーション ログ] を選択します。ServiceNow でアプリケーションログを表示するために必要なユーザー権限の詳細については、「必要なユーザー権限、p. 9」を参照してください。

デバイスが OpenManage Enterprise から削除されると、[説明] フィールドの [監視対象] 列が **False** に変更され、これらのデバイスからのイベントは ServiceNow で監視されなくなります。デバイスを ServiceNow から手動で削除できます。

メモ: OMISNOW ターゲット テーブルからデバイスを削除すると、対応するインポート セット テーブルからインポートされないコンポーネントは孤立したレコードになります。

トピック：

- [Dell EMC PowerEdge サーバーの基本的なサーバー インベントリ情報](#)
- [Dell EMC PowerEdge シャーシの基本的なインベントリ情報](#)
- [Dell EMC PowerEdge サーバーの詳細インベントリ情報](#)
- [シャーシの Dell EMC シャーシ詳細インベントリ情報](#)
- [サーバーのデバイス正常性の同期](#)
- [並列キューの構成](#)
- [サーバーの変換マップの有効化または無効化](#)
- [シャーシの変換マップの有効化または無効化](#)
- [アラート管理：アラートおよび対応する OpenManage Enterprise イベントの表示](#)
- [イベント管理 - すべてのイベントの表示](#)
- [インシデント管理：OpenManage Enterprise イベント用に作成されたインシデントの表示と管理](#)
- [アラート相関ルールの有効化または無効化](#)
- [アラート管理ルールの有効化または無効化](#)
- [デバイス イベントの同期](#)

Dell EMC PowerEdge サーバーの基本的なサーバー インベントリ情報

サーバーに関するインベントリ データを表示するには、[サーバー] > [Dell iDRAC サーバー] を選択します。オペレーティング システムに基づいてデバイスのインベントリ情報を表示するには、[サーバー] の下で次のいずれかを選択します。

- [Windows]
- [Linux]

- [UNIX]
- [ESX]

Dell EMC PowerEdge サーバーに関する詳細情報を表示するには、以下を参照してください。 [Dell EMC PowerEdge サーバーの詳細インベントリ情報](#)、p. 23

i **メモ:** PowerEdge サーバーの基本インベントリ属性の一部に対して表示されるデータは、ServiceNow の標準検出または OpenManage Enterprise 検出のどちらを使用してサーバーを検出したかによって異なります。

リスト ビューには、PowerEdge サーバーに関する次の基本的なインベントリ情報が表示されます。

- [名前]
- [製造元]
- [モデル番号]
- [オペレーティング システム]
- [OS バージョン]

i **メモ:** ServiceNow では [オペレーティング システム] フィールドと [OS バージョン] フィールドに文字数の制限が設定されているため、オペレーティング システムの名前とバージョンは部分表示されます。

- [クラス]
- [CPU の個数]
- [CPU コア数]
- [CPU のタイプ]
- [CPU 速度 (MHz)]
- [CPU 製造元]
- [BIOS バージョン]
- [ファームウェアバージョン]
- [エクスプレスサービスコード]
- [説明] — 次の属性が表示されます。
 - [監視対象] — サーバーの監視ステータスを示します。デバイスが OpenManage Enterprise インスタンスから削除された場合、またはデバイスにインストールされている OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスが期限切れになるまたは削除された場合、[監視対象] 属性値は **True** から **False** に変更されます。例：監視対象：False
 - [ステータス] — サーバーの全体的な正常性状態を示します。
 - [BIOS バージョン スtring] — BIOS のバージョンを示します。
 - [シャーシ サービス タグ] — シャーシのサービス タグを示します。
 - [エクスプレス サービス コード] — サーバーのエクスプレス サービス コードを示します。
 - [デバイス グループ] — デバイス グループを示します。
 - [OMEip] — OpenManage Enterprise インスタンスの IP アドレスを示します。
 - [id] は ID を示します。

i **メモ:** [CPU 数]、[CPU コア数]、[CPU タイプ]、[CPU 速度 (MHz)]、[CPU 製造元] の各列はデフォルトでは表示されません。列を追加するには、[パーソナライズされたリストのアップデート] 歯車アイコンをクリックし、必要な属性を選択します。

フォーム ビューには、PowerEdge サーバーに関する次の基本的なインベントリ情報が表示されます。

- [名前]
- [資産タグ]
- [製造元]
- [BIOS バージョン]
- [エクスプレス サービス コード]
- [シリアル番号]
- [モデル番号]
- [ファームウェアバージョン]
- [オペレーティング システム]
- [OS バージョン]

i **メモ:** ServiceNow では [オペレーティング システム] フィールドと [OS バージョン] フィールドに文字数の制限が設定されているため、オペレーティング システムの名前とバージョンは部分表示されます。

- [RAM (MB)]
- [CPU 製造元]
- [CPU のタイプ]
- [CPU 速度 (MHz)]

- [CPU の個数]
- [CPU コア数]
- [DNS ドメイン]
- [ディスク領域]
- [属性] — [属性] フィールドには、個々のコンポーネントの正常性の詳細が表示されます。
 - [電源装置]
 - [インタールージョン]
 - [温度]
 - [ファン]
 - [プロセッサ]
 - [保管時]
 - [メモリ]
 - [電圧]
 - [バッテリー]
 - [SEL/Misc]
 - [現在]
- [説明]:[説明] フィールドには、次の属性が表示されます。
 - [監視対象] — サーバーの監視ステータスを示します。デバイスが OpenManage Enterprise インスタンスから削除されている場合、またはデバイスにインストールされている OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスが期限切れになっているまたは削除されている場合、[監視対象] 属性値は **True** から **False** に変更されます。例：**監視対象：False**
 - [ステータス] — サーバーの全体的な正常性状態を示します。
 - [BIOS バージョン スtring] — BIOS のバージョンを示します。
 - [シャーシ サービス タグ] — シャーシのサービス タグを示します。
 - [エクスプレス サービス コード] — サーバーのエクスプレス サービス コードを示します。
 - [デバイス グループ] — デバイス グループを示します。
 - [OMEip] — OpenManage Enterprise インスタンスの IP アドレスを示します。
 - [id] — ID を示します。

iDRAC 情報を表示するには、[関連リンク] の下にある [帯域外デバイス] タブをクリックします。iDRAC に関して次の情報が表示されます。iDRAC 管理 URL をクリックして、iDRAC コンソールを起動します。

- [名前]
- [IP アドレス]
- [ホスト]
- [URL]
- [タイプ]
- [ファームウェアバージョン]
- [製品バージョン]
- [MAC アドレス]
- [検出ソース] []
- [最新の検出]

① メモ: [最新の検出] 列は、デフォルトでリスト ビューには表示されません。列を追加するには、[パーソナライズされたリストのアップデート] 歯車アイコンをクリックしてから、属性を選択します。

① メモ: ユーザーが OpenManage Enterprise からデバイスを検出し、その後で、標準提供の同じデバイスを検出した場合、サーバー テーブルなどの基本的なインベントリの詳細は重複しませんが、サーバー テーブル内の関連リストは重複するため、エンドユーザーによって処理されます。OpenManage Enterprise と標準提供で同じデバイスが検出された場合、お客様は関連するコンポーネントの重複レコードを処理する必要があります。

Dell EMC PowerEdge シャーシの基本的なインベントリ — 情報

シャーシに関するインベントリ データを表示するには、[モジュラー型システム] を選択します。シャーシのインベントリ情報を表示するには、[モジュラー型システム] で、次のいずれかを選択します。

- [PowerEdge FX2]
- [PowerEdge M1000e]

- [PowerEdge VRTX]
- [PowerEdge MX7000]

Dell EMC シャーシに関する詳細情報を表示するには、「[シャーシの Dell EMC シャーシ詳細インベントリー情報](#)、p.30」を参照してください。

リストビューには、PowerEdge シャーシに関する次の基本的なインベントリー情報が表示されます。

- [名前]
- [シリアル番号]
- [モデル ID]
- [資産タグ]
- [製造元]
- [DNS ドメイン]
- [説明]:[説明]には、次の属性が表示されます。
 - [監視対象]
 - [ステータス]
 - [シャーシのサービス タグ]
 - [エクスプレス サービス コード]
 - [デバイスグループ]
 - [OMEip]
 - [Id]

フォームビューには、PowerEdge シャーシに関する次の基本的なインベントリー情報が表示されます。

- [名前]
- [シリアル番号]
- [資産タグ]
- [モデル ID]
- [製造元]
- [DNS ドメイン]
- [説明]:[説明]には、次の属性が表示されます。
 - [監視対象]
 - [ステータス]
 - [シャーシのサービス タグ]
 - [エクスプレス サービス コード]
 - [デバイスグループ]
 - [OMEip]
 - [Id]

Dell EMC PowerEdge サーバーの詳細インベントリー情報

PowerEdge サーバーの詳細なインベントリー情報を表示するには、[<OS>サーバー] ページで、[関連リンク] の下にあるコンポーネントの対応するタブをクリックします。

以下の表に、各コンポーネント タブに表示される属性の一覧を示します。

メモ: OMISNOW テーブルのフィールドにマッピングできない属性は、JSON ファイル形式を使用して [説明] または [属性] フィールドのいずれかにリストされます。

[タブ]	[説明]	[属性]
[インストール済みソフトウェア]	PowerEdge サーバーにインストールされているソフトウェアについての情報が表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> • リストビューには、インストール済みソフトウェアに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ [名前] - ソフトウェアアプリケーションのデバイスの説明をリストします。[名前] 列で、デバイスの説明のいずれかをクリックしま

[タブ]	[説明]	[属性]
		<p>す。[ソフトウェア インスタンス] ページでは以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ [名前] ▪ [インストール日] ▪ [インストール対象] ▪ [製品名] <ul style="list-style-type: none"> ○ [バージョン] ○ [インストール日] ○ [製品名]- インスタンス ID とバージョンをリストします。[製品名] 列で、インスタンス ID のいずれかをクリックします。[ソフトウェア] ページに、ソフトウェアの [名前] および [バージョン] が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● フォーム ビューには、インストール済みソフトウェアに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [インストール日] ○ [インストール対象] ○ [製品名]
[メモリー モジュール]	PowerEdge サーバーのメモリー モジュールについての情報を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、ディスク ドライブに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [速度 (MHz)] ○ [タイプ] ○ [構成項目] ○ [製造元] ○ [デバイスの場所] ○ [容量] ○ [フォームファクター] ○ [タイプの詳細] ○ [説明] - メモリー モジュールの正常性状態と、メモリー モジュールが取り付けられているスロットに関する情報が表示されます。 <p>i メモ: [製造元] と [説明] の列はデフォルトでは表示されません。これらの列を追加するには、[パーソナライズされたリストのアップデート] 歯車アイコンをクリックしてから、[製造元] 属性と [説明] 属性を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フォーム ビューには、ディスク ドライブに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [構成項目] ○ [容量 (MB)] ○ [速度 (MHz)] ○ [タイプ] ○ [バンク ラベル] ○ [合計幅 (ビット)] ○ [パーツ ナンバー] ○ [シリアル番号]

[タブ]	[説明]	[属性]
[ディスク]	PowerEdge サーバーに取り付けられているディスク ドライブに関する情報が表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、ディスク ドライブに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [コンピューター] - サーバーのホスト名が表示されます。 ○ [インターフェイス] ○ [サイズ] ○ [空きディスク領域 (GB)] ○ [製造元] ○ [モデル番号] ○ [検出ソース] ○ [サイズ (バイト)] ○ [説明] ① メモ: [検出ソース] と [サイズ (バイト)] の列はデフォルトでは表示されません。これらの列を追加するには、[パーソナライズされたリストのアップデート] 歯車アイコンをクリックし、必要な属性を選択します。 ● フォームビューには、ディスク ドライブに関する次の情報が表示されません。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [デバイス ID] ○ [シリアル番号] ○ [製造元] ○ [モデル番号] ○ [ストレージタイプ] ○ [デバイスインターフェイス] ○ [サイズ] ○ [コンピューター] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。[raidStatus、usedSpace、formFactor、diskNumber、channel、slotNumber、mediaType、sasAddress、securityState、deviceid、manufacturedWeek、revision、EncryptionAbility、statusString、manufacturedYear、partNumber、enclosureID、busType、remainingReadWriteEndurance、manufactureDay、predictiveFailureState、] [Status]、
[ネットワークアダプタ]	PowerEdge サーバーに取り付けられているネットワーク アダプターについての情報が表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、ネットワーク アダプターに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [MAC アドレス] ○ [IP アドレス] ○ [ネットマスク] ○ [構成項目] ○ [Mac 製造元] ○ [DHCP が有効] ○ [ステータス]

[タブ]	[説明]	[属性]
		<ul style="list-style-type: none"> ○ [属性] ○ [説明] - NIC が設定されているスロットとポート番号が表示されます。 ● フォーム ビューには、ネットワークアダプターに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [IP アドレス] ○ [ネットマスク] ○ [MAC アドレス] ○ [DHCP が有効] ○ [Mac 製造元] ○ [構成項目] ○ [ステータス] ○ [属性] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [PermanentMacAddress、VirtualMacAddress、VirtualscsiMacAddress、VirtualFipMacAddress、NicMode、FcoeMode、FGDD、IscsiMode、MinBandwidth、MaxBandwidth、PortId、ProductName、InitiatorName、InitiatorGateway、InitiatorPrimaryDns、InitiatorSecondaryDns、TargetIpAddress、TargetFcoeWwpn、LinkStatus、] [LinkSpeed]、
[電源装置]	<p>PowerEdge サーバーに取り付けられている PSU についての情報が表示されます。</p> <p>① メモ: PSU 情報はモジュラーサーバーでは表示されません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、PSU に関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [シリアル番号] ○ [製造元] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [operationalStatus、powerSupplyType、requestedState、inputVoltage、outputWatts、range1MaxInputPowerWatts、acInput、inputPowerUnits、redundancyState、acOutput、compType、switchingSupply、ratedMaxOutputPower、activeInputVoltage、Range1MaxInputVoltageHighMilliVolts、location、model、Id、state、firmwareVersion、] [status]、 ○ [検出ソース] ● フォーム ビューには、ネットワークアダプターに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [シリアル番号] ○ [製造元] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [operationalStatus、powerSupplyType、requestedState、

[タブ]	[説明]	[属性]
		<p>inputVoltage、outputWatts、range1MaxInputPowerWatts、acInput、inputPowerUnits、redundancyState、acOutput、compType、switchingSupply、ratedMaxOutputPower、activeInputVoltage、Range1MaxInputVoltageHighMilliVolts、location、model、Id、state、firmwareVersion、][status]、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ [検出ソース] <p>i メモ: cmdb_ci テーブルは PowerEdge サーバーの PSU 情報を格納するために使用されるため、[compType]属性はコンポーネントタイプを PSU として特定するために追加されています。</p>
[ストレージコントローラー]	PowerEdge サーバーに取り付けられている RAID コントローラーについての情報が表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、RAID コントローラーについて次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [デバイス ID] ○ [コンピュータ] ○ [検出ソース] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。[DeviceDescription、extraAttribute、Status、DriverVersion、PciSlot、RollupStatusString、RollupStatus、StatusTypeString、FirmwareVersion、CacheSizeInMb、][StorageAssignmentAllowed]、 ● フォームビューには、RAID コントローラーに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [デバイス ID] ○ [コンピュータ] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。[DeviceDescription、extraAttribute、Status、DriverVersion、PciSlot、RollupStatusString、RollupStatus、StatusTypeString、FirmwareVersion、CacheSizeInMb、][StorageAssignmentAllowed]、
[ストレージデバイス]	PowerEdge サーバーに取り付けられている仮想ディスクおよび物理ディスクに関する情報が表示されます。	<p>物理ディスク :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、物理ディスクに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [コンピュータ] ○ [デバイス ID] ○ [ストレージタイプ] ○ [デバイスインターフェイス] ○ [サイズ] ○ [検出ソース]

[タブ]	[説明]	[属性]
		<ul style="list-style-type: none"> ○ [デバイス ターゲット ID] ○ [提供元] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [raidStatus、usedSpace、formFactor、diskNumber、channel、slotNumber、mediaType、sasAddress、securityState、deviceId、manufacturedWeek、revision、EncryptionAbility、statusString、manufacturedYear、partNumber、enclosureId、busType、remainingReadWriteEndurance、manufacturedDay、predictiveFailureState、] [status]、 ● フォーム ビューには、物理ディスクに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [デバイス ID] ○ [ストレージ タイプ] ○ [デバイス インターフェイス] ○ [シリアル番号] ○ [サイズ] ○ [コンピュータ] ○ [製造元] ○ [モデル番号] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [raidStatus、usedSpace、formFactor、diskNumber、channel、slotNumber、mediaType、sasAddress、deviceId、manufacturedWeek、revision、EncryptionAbility、statusString、manufacturedYear、partNumber、enclosureId、busType、remainingReadWriteEndurance、manufacturedDay、predictiveFailureState、] [status]、 <p>論理ディスク：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、論理ディスクに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [コンピュータ] ○ [デバイス ID] ○ [ストレージ タイプ] ○ [デバイス インターフェイス] ○ [デバイス ターゲット ID] ○ [提供元] ○ [サイズ] ○ [検出ソース] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [RaidControllerId、Status、ReadPolicy、CachePolicy、Layout、StripeSize、LockStatus、State、MediaType、MagneticDrive、Fqdd、RollupStatus、] [WritePolicy]、

[タブ]	[説明]	[属性]
		<ul style="list-style-type: none"> ● フォーム ビューには、仮想ディスクに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [デバイス ID] ○ [ストレージ タイプ] ○ [デバイス インターフェイス] ○ [サイズ] ○ [コンピュータ] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [RaidControllerId、Status、ReadPolicy、CachePolicy、Layout、StripeSize、LockStatus、State、MediaType、MagneticDrive、Fqdd、RollupStatus、] [WritePolicy]。
[保証]	<p>PowerEdge サーバーに関する次の保証情報が表示されます。</p> <p>① メモ: データセンター環境で使用されている OpenManage Enterprise のバージョンがバージョン 3.3 以前の場合は、サーバーに関する保証の詳細が表示されません。保証情報を表示するには、OpenManage Enterprise のバージョンを 3.4 以降にアップグレードしてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、保証に関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [番号] ○ [開始日] ○ [終了日] ○ [自動更新] ○ [名前] ○ [状態] ○ [PO 番号] ○ [契約番号] ○ [ベンダー] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [IsWarrantyItemRenewed、DeviceModel、GroupName、DaysRemaining、ServiceLevelGroup、ServiceLevelCode、DeviceType、TimeStamp、MaxEndDateForServiceCode、CustomerNumber、LocalChannel、ServiceLevelDescription、Discovery Source、] [SystemShipDate]。 ● フォーム ビューには、保証に関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [番号] ○ [開始日] ○ [終了日] ○ [自動更新] ○ [名前] ○ [状態] ○ [PO 番号] ○ [場所] ○ [アクティブ] ○ [契約番号] ○ [支払い額] ○ [支払いスケジュール] ○ [総コスト] ○ [説明] - 次の情報が JSON 形式で表示されます。 [IsWarrantyItemRenewed、DeviceModel、GroupName、

[タブ]	[説明]	[属性]
		DaysRemaining、ServiceLevelGroup、ServiceLevelCode、Discovery Source、Local Channel、DeviceType、TimeStamp、MaxEndDateForServiceCode、CustomerNumber、LocalChannel、ServiceLevelDescription、 [SystemShipDate]、
ライセンス	ライセンス情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、ライセンスに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [契約番号] ○ [契約モデル] ○ [説明] ○ [契約タイプ] ○ [開始日] ○ [終了日] ● フォームビューには、ライセンスに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [契約モデル] ○ [状態] ○ [ベンダー] ○ [サブ状態] ○ [契約番号] ○ [契約管理者] ○ [名前] ○ [承認者] ○ [親契約] ○ [ビジネス オーナー] ○ [開始日] ○ [終了日] ○ [契約タイプ] ○ [説明]: 次の情報が JSON 形式で表示されます。[デバイスのシリアル番号、DeviceSource、Licensebound、EvalTimeRemaining、AssignedDevices、Licensebound、InventoryType、ライセンスの種類]

シャーシの Dell EMC シャーシ詳細インベントリー情報

シャーシの詳細なインベントリー情報を表示するには、[サーバー シャーシ] ページで、[関連リンク] の下にあるコンポーネントの対応するタブをクリックします。

以下の表に、各コンポーネント タブに表示される属性の一覧を示します。

[タブ]	[説明]	[属性]
[OME]	OME 接続プロファイルに関する情報を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、インストール済みソフトウェアに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [OME IP/FQDN] ○ [ユーザー名] ○ [MID サーバー]

[タブ]	[説明]	[属性]
		<ul style="list-style-type: none"> ● フォーム ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [MID サーバー] ○ [OME IP/FQDN] ○ [ユーザー名] ○ [障害の数] ○ [パスワード] ○ [SupportAssist プラグイン] ○ [プロパティ] <ul style="list-style-type: none"> ■ [OME インベントリーの収集] ■ [OME イベントの収集] ■ [サーバー正常性の収集] ■ [SAE プラグイン ケースの収集] ■ [OME でのイベントの承認] ■ [インシデントの作業メモでのイベントの確認メッセージの記録] ■ [重要アラート] ■ [警告アラート]
[イベント]	イベント情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、インストール済みソフトウェアに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [イベントの時刻] ○ [ソース] ○ [説明] ○ [ノード] ○ [タイプ] ○ [リソース] ○ [メッセージ キー] ○ [状態] ○ [重大度] ○ [警告] ● フォーム ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [ソース] ○ [ノード] ○ [タイプ] ○ [リソース] ○ [メトリック名] ○ [ソース インスタンス] ○ [メッセージ キー] ○ [重大度] ○ [解決状態] ○ [イベントの時刻] ○ [状態] ○ [警告] ○ [説明] ○ [追加情報] ○ [処理メモ]
[アラート]	アラート情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [番号]

[タブ]	[説明]	[属性]
		<ul style="list-style-type: none"> ○ [グループ] ○ [重大度] ○ [優先度グループ] ○ [優先順位] ○ [状態] ○ [ソース] ○ [説明] ○ [ノード] ○ [構成項目] ○ [メトリック名] ○ [メンテナンス] ○ [タスク] ○ [影響を受けるサービス] ○ [親] ○ [初期イベントの生成時間] ○ [アップデート済み] ● フォーム ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [番号] ○ [ソース] ○ [重大度] ○ [ノード] ○ [状態] ○ [タイプ] ○ [承認済み] ○ [メンテナンス] ○ [リソース] ○ [アップデート済み] ○ [構成項目] ○ [親] ○ [タスク] ○ [ナレッジベース記事] ○ [メトリック名] ○ [全体のイベント数] ○ [説明] ○ [メッセージ キー]
[インシデント]	インシデント情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [番号] ○ [未解決] ○ [簡単な説明] ○ [呼び出し元] ○ [優先順位] ○ [状態] ○ [カテゴリ] ○ [割り当てグループ] ○ [割り当て先] ○ [アップデート済み] ○ [更新者] ● フォーム ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [番号] ○ [連絡先タイプ] ○ [呼び出し元]

[タブ]	[説明]	[属性]
		<ul style="list-style-type: none"> ○ [状態] ○ [カテゴリ] ○ [効果] ○ [サブ項目] ○ [緊急性] ○ [サービス] ○ [優先順位] ○ [構成項目] ○ [割り当てグループ] ○ [割り当て先] ○ [簡単な説明] ○ [説明]
[帯域外デバイス]	帯域外デバイス情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [ホスト] ○ [URL] ○ [ファームウェアバージョン] ○ [IP アドレス] ○ [MAC アドレス] ○ [製造元] ○ [検出ソース] ○ [最新の検出] ● フォームビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [ホスト] ○ [IP アドレス] ○ [製造元] ○ [MAC アドレス] ○ [ファームウェアバージョン] ○ [URL] ○ [検出ソース] ○ [最新の検出]
[電源装置]	設定済み電源装置の項目に関する情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [属性] <ul style="list-style-type: none"> ■ [メンバー ID] ■ [電圧] ■ [パーツ ナンバー] ■ [インベントリー タイプ] ■ [状態の有効化] ■ [電源ステータス] ■ [ID] ■ [容量 (ワット)] ■ [正常性状態] ■ [電源装置タイプ] ○ [検出ソース] ● フォームビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [ステータス]

[タブ]	[説明]	[属性]
[ファン リスト]	設定されたファン リスト アイテムに関する情報を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [属性] <ul style="list-style-type: none"> ■ [ステータス] ■ [メンバー ID] ■ [速度] ■ [インベントリ タイプ] ■ [状態] ■ [PWM] ■ [速度ユニット] ■ [id] ■ [PWM ユニット] ■ [ハードウェア バージョン] ■ [ファームウェア バージョン] ○ [検出ソース] <ul style="list-style-type: none"> ● フォーム ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [ステータス]
[RAID コントローラー]	ストレージ コントローラーに関する情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [デバイス ID] ○ [属性] ○ [コンピュータ] ○ [検出ソース] ○ フォーム ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [名前] ■ [デバイス ID] ■ [コンピュータ] ■ [属性]
[インストール済みソフトウェア]	ソフトウェア インスタンスに関する情報を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [製品名] ○ [インストール日] ● フォーム ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [シリアル番号] ○ [資産タグ] ○ [モデル ID] ○ [製造元] ○ [DNS ドメイン] ○ [説明]
[ライセンス]	契約についての情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リスト ビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [契約番号] ○ [説明] ○ [開始日] ○ [終了日]

[タブ]	[説明]	[属性]
		<ul style="list-style-type: none"> ○ [契約タイプ] ○ [契約モデル]
[サーバー]	CI 関係に関する情報を表示します	<ul style="list-style-type: none"> ● リストビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [親] ○ [タイプ] ○ [子] ○ [接続の強度] ● フォームビューには、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ [名前] ○ [シリアル番号] ○ [資産タグ] ○ [モデルID] ○ [製造元] ○ [DNS ドメイン] ○ [説明] <p>① メモ: 特定のシャーシの下にリストされている、Dell EMC OpenManage の ServiceNow ライセンスを持つサーバーがここに表示されます。</p>

サーバーのデバイス正常性の同期

デバイスの正常性の同期は、サーバー正常性のすべてのステータスを示します。デバイスの正常性の同期を実行するには、次の手順を実行します。

OME プロファイルでサーバーの正常性の収集時間を変更するには、以下を行います。

1. ナビゲーションフィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[接続プロファイル] で [OpenManage Enterprise の接続プロファイル] をクリックします。
2. [プロパティ] セクションで、[サーバー正常性収集] を変更します。デフォルトでは、サーバー正常性の収集は1日に設定されています。

① **メモ:** サーバー正常性の収集は1時間未満には変更できません。

3. [アップデート] をクリックします
4. ナビゲーションフィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[接続プロファイル] で [OpenManage Enterprise の接続プロファイル] をクリックします。
5. OpenManage エンタープライズ接続プロファイルをチェックして、[選択した行のアクション] から [OME デバイス正常性同期] を選択します。
ログメッセージが表示されます。
6. 正常性ステータスを表示するには、リストから任意のサーバーを選択します。
個々のサーバーの属性に、次の正常性ステータスが表示されます。
 - 電源装置
 - ファン
 - 温度
 - プロセッサ
 - メモリ
 - 電圧
 - バッテリ
 - Sel/Misc
 - 現在

並列キューの構成

デバイス インベントリーの同期時間を短縮するために、OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) では、複数の外部通信チャネル (ECC) キューを並行で実行してデバイス インベントリー情報を取得します。デフォルトでは、並列で実行できる ECC キュー数は 10 に設定されています。

① **メモ:** 並列キューがシームレスに動作するようにするには、OpenManage Enterprise の API セッションの最大数が 10 未満に設定されていないことを確認します。デフォルトでは、API セッションの最大数は 100 に設定されています。詳細については、『Dell EMC OpenManage Enterprise ユーザーズガイド』を参照してください。

並列キューの数を変更するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションフィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[アプリケーションのプロパティ] の下にある [プロパティ] をクリックします。
2. [プロパティ] ページで、[Dell EMC OpenManage Integration のプロパティ] をクリックします。
3. [インベントリー同期用の並列キュー] セクションの [並列キュー] ボックスに、実行する並列キューの数を入力します。

サーバーの変換マップの有効化または無効化

定義されたルールを使用する OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) 変換マップは、OMISNOW ステージング テーブルのレコードを対応する OMISNOW ターゲットテーブルに変換するのに使用されます。デフォルトでは、変換マップは有効になっています。ただし、インポートセットテーブル (ステージング テーブル) から対応するターゲットテーブルへのレコードの移動を停止するには、変換マップを無効にします。たとえば、ネットワーク アダプターレコードのターゲットテーブルへの移動を停止するには、[ネットワーク アダプター] 変換マップを無効にします。

変換マップを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションフィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[アプリケーションのプロパティ] の下にある [プロパティ] をクリックします。
2. [プロパティ] ページで、[Dell EMC OpenManage Integration のプロパティ] をクリックします。
3. コンポーネントの変換マップを無効にするには、[変換マップの有効化/無効化] セクションで、コンポーネントの横にあるチェック ボックスをオフにします。

以下のコンポーネントの変換マップを有効または無効にすることができます。

① **メモ:** デフォルトでは、すべての変換マップは有効になっています。[サーバー] 変換マップを無効にすると、その他の変換マップは自動的に無効になります。

- [サーバー]
- [イベント]
- [帯域外デバイス]
- [ネットワークアダプタ]
- [メモリー モジュール]
- [ストレージ コントローラー]
- [ソフトウェア インスタンス]
- [ディスク]
- [電源装置]
- [ストレージデバイス]
- [保証]
- [ライセンス]

4. [アップデート] をクリックします。

インポート セット テーブル

このトピックでは、インポート セット テーブル (ステージング テーブル) の機能について説明します。

ServiceNow では、インポート セット テーブルと変換マップを使用してデータ レコードをインポートします。データ レコードがインポートされると、インポート セット テーブルに保存されます。したがって、テーブルは、データソースからインポートされたデータ レコードの変換前のステージング場所として機能します。

シャーシの変換マップの有効化または無効化

定義されたルールを使用する OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) 変換マップは、OMISNOW ステージング テーブルのレコードを対応する OMISNOW ターゲットテーブルに変換するのに使用されます。デフォルトでは、変換マップは有効になっています。ただし、インポート セット テーブル (ステージング テーブル) から対応するターゲット テーブルへのレコードの移動を停止するには、変換マップを無効にします。たとえば、シャーシ コンポーネント レコードのターゲット テーブルへの移動を停止するには、[シャーシ コンポーネント] 変換マップを無効にします。

変換マップを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーション フィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[アプリケーションのプロパティ] の下にある [プロパティ] をクリックします。
2. [プロパティ] ページで、[Dell EMC OpenManage Integration のプロパティ] をクリックします。
3. コンポーネントの変換マップを無効にするには、[変換マップの有効化/無効化] セクションで、コンポーネントの横にあるチェック ボックスをオフにします。

以下のコンポーネントの変換マップを有効または無効にすることができます。

メモ: デフォルトでは、すべての変換マップは有効になっています。[シャーシ] 変換マップを無効にすると、その他の変換マップは自動的に無効になります。

- [シャーシ]
- [イベント]
- [帯域外デバイス]
- [電源装置]
- [ファン]
- [RAID コントローラー]
- [ソフトウェア インスタンス]
- [ライセンス]

4. [アップデート] をクリックします。

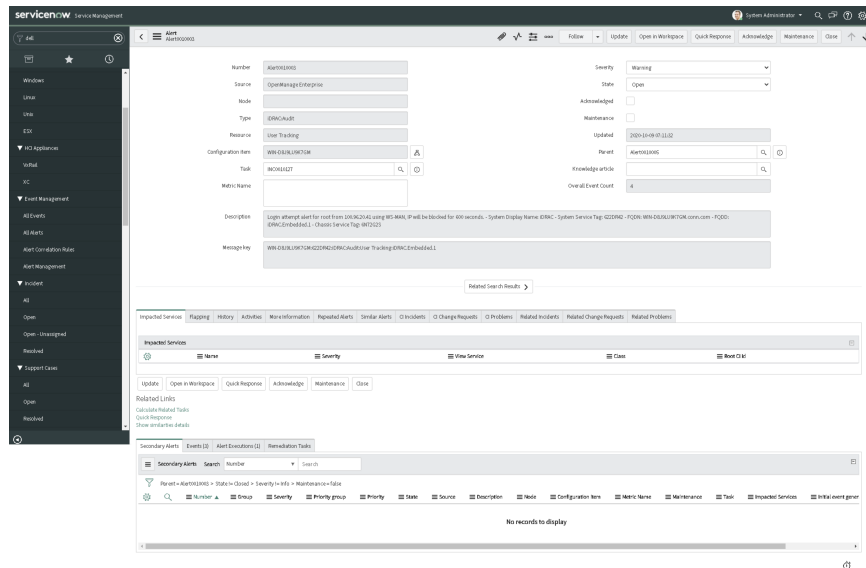
アラート管理 : アラートおよび対応する OpenManage Enterprise イベントの表示

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow には、OpenManage Enterprise から取得されたイベントを、ターゲット ノードのハードウェア リソースに基づいてグループ化する機能があります。

OpenManage Enterprise からのアラートを定期的またはオンデマンドで同期するには、PowerEdge サーバーに OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスがインストールされていることを確認します。

アラートを表示するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーション フィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[イベント管理] で [すべてのアラート] を選択します。
[[アラート]] ページに、ServiceNow で作成されたアラートがリストされます。アラートは、OpenManage Enterprise から取得されたイベントに対して作成され、ハードウェア リソースに基づいてグループ化されます。アラートは Service Now のサーバー CI にマッピングされています。サーバー CI は、[構成項目] 列に表示されます。
2. [番号] 列で、アラートを選択して詳細情報を表示します。



[重大度]フィールドにはアラートの重大度が表示され、[リソース]フィールドには ServiceNow でグループ化されていると考えられるターゲットノードのハードウェアリソースが表示されます。[タスク]フィールドには、ServiceNow によって作成された関連インシデントが表示されます。インシデントの表示の詳細については、「[インシデント管理：OpenManage Enterprise イベント用に作成されたインシデントの表示と管理](#)、p. 39」を参照してください。

3. 対応するイベントを表示するには、[関連リンク]で[イベント]タブを選択します。

ServiceNow のアラート管理機能の詳細については、ServiceNow インスタンスの[アラート管理]モジュールを参照してください。

OME アラートのイベントの確認

OpenManage Integration for ServiceNow でインシデントが作成されたアラートを確認することができます。

管理者権限で OMECP を使用すると、インシデントが OMISNOW で作成された OpenManage Enterprise で作成されたアラートを OMISNOW で自動的に確認できます。確認済みのアラートを表示するには、次の手順を実行します。

1. OpenManage コンソールにログインします。
2. [アラート ログ]に移動し、作成されたアラートが確認されたかどうかを確認します。

ログ イベント メッセージの確認

このトピックでは、OMISNOW リリースでインシデントの作業メモに記録されたイベントメッセージの確認について説明します。

管理者権限を持つユーザーは、OMECP ページに存在する[インシデントの作業メモのログ イベント承認メッセージ]を選択できます。インシデントの作業メモにログ イベントを表示するには、次の手順を実行します。

- [インシデント] > [すべて]を選択して、任意のインシデントを選択してから[メモ] > [アクティビティ]を選択します。

イベント管理 - すべてのイベントの表示

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow には、OpenManage Enterprise から取得されたイベントを、ターゲットノードのハードウェアリソースに基づいてグループ化する機能があります。

OpenManage Enterprise からのイベントを定期的またはオンデマンドで同期するには、PowerEdge サーバーに OpenManage Integration with ServiceNow ライセンスがインストールされていることを確認します。

すべてのイベントを表示するには、以下を行います。

1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[イベント管理]で[すべてのイベント]を選択します。
[イベント]ページに、ServiceNow で作成されたイベントがリストされます。
2. [イベントの時刻]列で、イベントを選択して詳細情報を表示します。

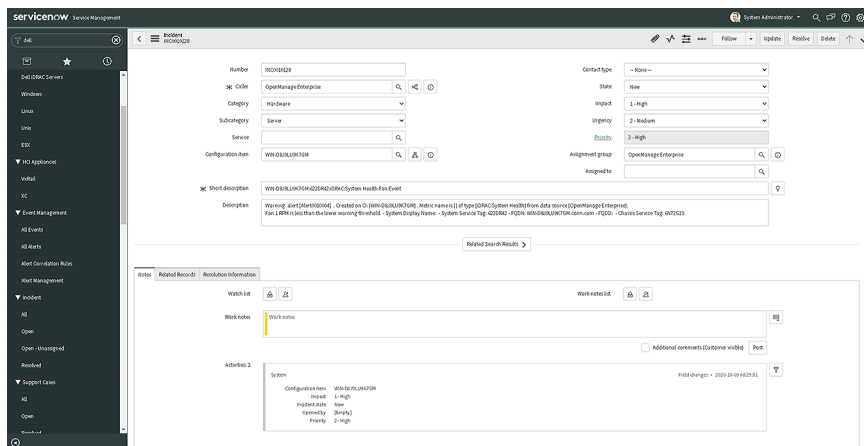
メモ: イベントとアラートは、イベント管理プラグインが有効化されている場合にのみ表示されます。それ以外の場合、OME アラートはインシデントに直接処理されます。

インシデント管理: OpenManage Enterprise イベント用に作成されたインシデントの表示と管理

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow には、アラート用に作成されたインシデントを表示および管理する機能があります。重要および警告状態のアラートに対し、ServiceNow は対応するインシデントを作成します。

インシデントを表示および管理するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力し、[インシデント] を選択します。



[インシデント] ページに、ServiceNow によって作成されたインシデントがリストされます。インシデントは、インシデントの優先度と状態に基づいてフィルターにかけられます。アラート管理ルールを変更するには、「アラート管理ルールの有効化または無効化」、p. 40」を参照してください。

2. [番号] 列で、インシデントを選択して詳細情報を表示します。
[簡単な説明] および [説明] フィールドには、個々のインシデントに対応する関連付けられたサービス タグ、ターゲット ノード、アラートが表示されます。
3. インシデントを管理するには、[状態] ドロップダウン メニューを選択してから、インシデントの解決方法に応じて各状態を選択します。

インシデントは、OMISNOW によって OpenManage Enterprise グループに自動的に割り当てられます。[割り当てグループ] フィールドおよび [割り当て先] フィールドに対して検索アイコンを使用することによって、別のグループやユーザーにインシデントを割り当てることができます。

インシデントが解決され、状態が完了にアップデートされると、対応するアラート状態も完了にアップデートされて、OpenManage Enterprise から取得されたアラートが解決されたことが表示されます。[解決情報] タブを選択して、解決ステータスに関する詳細情報を表示します。

メモ: ServiceNow 管理者であり、x_310922_omisnow.OMISNOW オペレーターの役割を担うユーザーが、OpenManage Enterprise のインシデントを解決して終了することができます。

メモ: デフォルトでは、重要および警告のイベントのみがインシデントに追加されます。

アラート関連ルールの有効化または無効化

OpenManage Integration with ServiceNow では、[OME アラート関連ルール] ルールに基づいて、アラートをプライマリーとセカンダリーに手動で分類することができます。このルールを使用して、プライマリーおよびセカンダリーのアラートと、関連するグループアラートの間に関係を確立することができます。

アラート関連ルールは、デフォルトで有効になっていますが、有効または無効にすることができます。アラート関連ルールの有効化/無効化に必要なユーザー権限の詳細については、「必要なユーザー権限」、p. 9」を参照してください。

1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[イベント管理] で [アラート関連ルール] を選択します。

2. [アラート関連ルール] ページで、[OME アラート関連ルール] ルールを選択します。
3. 重要状態にあるアラートのインシデントを作成するルールを有効にするには、[OME アラート関連ルール] ページで、[アクティブ] チェック ボックスを選択します。ルールを無効にするには、[アクティブ] チェック ボックスをクリアします。
4. [アップデート] をクリックします。

更新されたアラート関連ルールは、次のイベント同期スケジュール中に適用されます。

アラート管理ルールの有効化または無効化

OpenManage Integration with ServiceNow では、[アラート管理ルール] ページに定義されている次のルールに基づいて、重要および警告状態にあるアラートのインシデントが作成されます。

- [重要アラートでのインシデント作成]
- [警告アラートでのインシデント作成]

アラート管理ルールはデフォルトで有効に設定されています。ただし、アラート管理ルールを有効または無効にすることができません。アラート管理ルールの有効化または無効化に必要なユーザー権限の詳細については、[[必要なユーザー権限](#)、p. 9] を参照してください。

1. ナビゲーションフィルターに [Dell EMC OpenManage Integration] と入力してから、[イベント管理] で [アラート管理] を選択します。
2. [アラート管理ルール] ページで次を実行します。
 - 重要な状態のアラートのインシデントを作成するルールを有効にするには、[重要アラートでのインシデント作成] ルールを選択してから、[アラート情報] タブで [アクティブ] チェック ボックスを選択します。ルールを無効にするには、[アクティブ] チェック ボックスをクリアします。
 - 警告状態のアラートのインシデントを作成するルールを有効にするには、[警告アラートでのインシデント作成] ルールを選択し、[アラート情報] タブで [アクティブ] チェック ボックスを選択します。ルールを無効にするには、[アクティブ] チェック ボックスをクリアします。
3. [アップデート] をクリックします。

更新されたアラート管理ルールは、次のイベント同期スケジュール中に適用されます。

デバイス イベントの同期

このトピックでは、選択したサーバーとシャーシの両方でデバイス イベントの同期を実行する方法について説明します。

任意のサーバーのデバイス イベントの同期を実行するには、次の手順を実行します。

1. Dell EMC OpenManage Integration ホーム ページのドロップ ダウンからサーバーまたはシャーシのいずれかを選択します。
2. リスト ビューで、更新するサーバーまたはシャーシを複数選択し、[選択した行のアクション] から [デバイス イベント同期] をクリックします。[]
 - デバイス イベントの同期をフォーム ビューで有効化することもできます。これを実行するには、フォーム ビューの [関連リンク] に移動し、[デバイス イベント同期] をクリックします。

ServiceNow での SupportAssist Enterprise インスタンスの追加

データセンターで使用可能な1つまたは複数の SupportAssist Enterprise インスタンスからケースを取得することができます。SupportAssist Enterprise からケースを取得するには、OpenManage Integration with ServiceNow を使用して SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを作成する必要があります。複数の接続プロファイルがある場合は、OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise の接続プロファイルの数に基づいて、MID サーバーを設定します。OpenManage Enterprise プロファイルごとに1つの MID サーバーを使用することをお勧めします。

- SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを作成するには、[[SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの作成](#)、p. 41] を参照してください。
- SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを編集するには、[[SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの編集](#)、p. 42] を参照してください。
- SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを削除するには、[[SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの削除](#)、p. 42] を参照してください。

トピック：

- [SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの作成](#)
- [SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの編集](#)
- [SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの削除](#)

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの作成

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを作成する前に、次の操作を完了しておいてください。

- Dell EMC サポート サイトからアップデートセットをインポートして、ServiceNow に OpenManage Integration with ServiceNow アプリケーションをインストールする。詳細については、サポートサイトの『[Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow インストールガイド](#)』を参照してください。
- データセンター環境に、管理、計測、検出 (MID) サーバーを1台以上インストールして設定する。
- OpenManage Integration with ServiceNow コネクタ-jar ファイルを MID サーバーに導入する。
- 必要なユーザー権限 [必要なユーザー権限](#)、p. 9 を参照してください。

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[接続プロファイル] で [SupportAssist Enterprise 接続プロファイル] を選択します。
2. [新規] をクリックします。
3. 接続プロファイル名を入力します。
4. 次の SupportAssist Enterprise 情報を入力します。
 - IP アドレスまたは FQDN アドレス
 - ユーザー名
 - パスワード
 入力した SupportAssist Enterprise 情報は、ServiceNow インスタンスとの接続の検証に使用されます。
5. 該当するドロップダウンメニューを選択して、ケースの影響と緊急度を指定します。
6. MID サーバーを選択するには、[検索] アイコンをクリックし、リストから構成済みの MID サーバーを選択します。
7. ServiceNow インスタンスと SupportAssist Enterprise との間の接続が確立されていることを確認するには、[接続をテスト] をクリックします。
8. 管理者はレコードを提出する前に、[プロパティ] の下で SAE ケース収集の時間をアップデートできます。
9. SupportAssist Enterprise への接続が正常に行われた場合は、[送信] をクリックします。

これで、SupportAssist Enterprise 接続プロファイルが作成され、[SAE 接続プロファイル] ページにリストされます。
メモ: テスト接続を実行せずに [送信] をクリックすると、テスト接続を実行するように警告するメッセージが表示されます。このメッセージで [このページで追加ダイアログを作成しない] チェックボックスをオンにしないでください。この

オプションが選択されている場合、次回に接続プロファイルを作成すると、このメッセージは表示されず、次の Web ブラウザーでは接続プロファイルを作成することができなくなります。

- Internet Explorer
- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox

メモ: OpenManage Integration with ServiceNow バージョン 1.0 では、SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを 1 つだけ作成できます。

10. 別の SupportAssist Enterprise インスタンスの接続プロファイルを作成するには、手順 1~8 を繰り返します。

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの編集

1. [SAE 接続プロファイル] ページで、接続プロファイルを選択します。

2. 次のフィールドを編集できます。

- SupportAssist Enterprise アプライアンスの [IP アドレス] または [FQDN]。
- SupportAssist Enterprise アプライアンスの [ユーザー名] と [パスワード]。
- 該当するドロップダウンメニューを選択して、ケースの影響と緊急度を編集します。

メモ: SupportAssist Enterprise の [IP アドレス]、[FQDN]、[ユーザー名] を変更した場合は、パスワードを再入力して [SAE テスト接続] をクリックする必要があります。

3. 管理者は、レコードを提出する前にプロパティ セクションで、SAE ケース収集の時間をアップデートすることができます。

4. [アップデート] をクリックします。

アップデートされた接続プロファイルは、[SAE 接続プロファイル] ページにリストされます。

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの削除

1. [[SAE 接続プロファイル]] ページの [[名前]] 列で、接続プロファイルをクリックします。

2. ServiceNow から接続プロファイルを削除するには、[[削除]] を選択します。

3. [[確認]] ダイアログボックスで、[[削除]] を選択します。

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルが ServiceNow から削除されます。

メモ: 既存の SupportAssist Enterprise 接続プロファイルを削除すると、関連するケースは ServiceNow で監視されません。

事故管理 - SupportAssist Enterprise および SupportAssist Enterprise プラグイン ケースのインシデントを表示および監視する

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) には、SupportAssist Enterprise のすべてのケースを ServiceNow インスタンスに取り込む機能があります。ケースを効率的に監視するために、すべてのケースに対応するインシデントが ServiceNow によって作成されます。

前提条件：

- ServiceNow でケースを取得する前に、OpenManage Enterprise で検出されたデバイスを SupportAssist Enterprise に追加する必要があります。SupportAssist Enterprise でデバイスを追加する方法の詳細については、Dell EMC サポート サイトにある『SupportAssist Enterprise ユーザーズガイド』を参照してください。
- ServiceNow との統合に有効な Dell EMC ライセンスのある OpenManage Enterprise で検出されたデバイスの Dell EMC サポート ケースは、ServiceNow でのみ監視されます。ライセンスは、サーバーの購入時、またはセールス担当者に問い合わせ、購入することができます。購入したライセンスは、Dell.com/support/retail/lkm のソフトウェアライセンス管理ポータルからダウンロードできます。
- 必要なユーザー権限があることを確認します。[必要なユーザー権限](#)、p. 9 を参照してください。
- SupportAssist Enterprise 接続プロファイルが ServiceNow で作成されます。[OpenManage Enterprise 接続プロファイルの作成](#)、p. 15 を参照してください。
- OpenManage Integration with ServiceNow アプリケーションのイベントとインシデントを表示するには、ServiceNow インスタンスでイベント管理プラグインを有効にする必要があります。[アクション] > [プラグインの有効化] > [使用可能なプラグイン] > [イベント管理] > [プラグインのみの有効化] を選択して、プラグインを有効にします。

SupportAssist Enterprise ケースを取得し、ServiceNow で対応するイベントを表示するには、次の手順を実行します。

① メモ: SupportAssist Enterprise でサポート ケースの状態が変更された場合は、ケース状態が ServiceNow インシデント管理状態モデルフローでサポートされている場合にのみ、ケース状態が OMISNOW で反映されます。[ServiceNow ドキュメント](#) を参照してください。

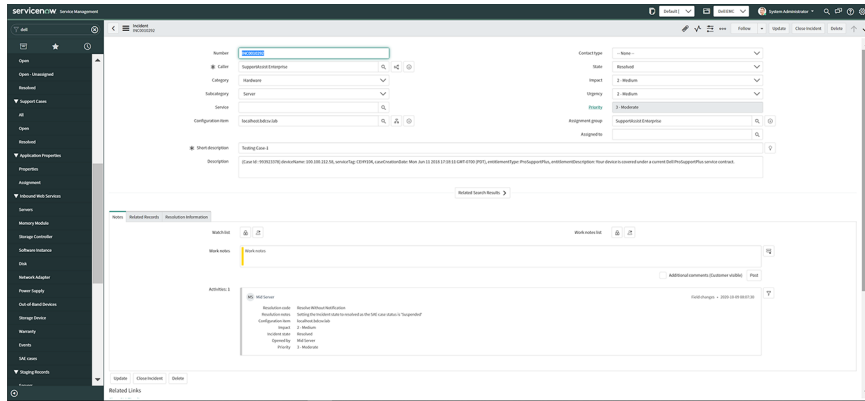
1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[接続プロファイル] で [SupportAssist Enterprise 接続プロファイル] を選択します。
2. ケースを取得するには、リストから接続プロファイルを選択し、[選択した行のアクション] > [SAE ケースの同期] を選択します。最初のオンデマンド SAE ケース同期の後、OMISNOW では、スケジュールされたケースの同期を実行します。デフォルトでは、SAE ケースの同期は、SAE 接続プロファイルの SAE ケース収集フィールドで 15 分にスケジュールされています。SAE ケース収集スケジュールを変更するには、SAE ケース コレクション フィールドをアップデートします。

① メモ: OMISNOW では、スケジュールされた SAE ケース同期は初回のオンデマンド SAE ケース同期後にのみ実行されます。

3. ServiceNow によって作成されたインシデントを表示するには、ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[SupportAssist Plugin/Support Cases] で次のいずれかを選択します。

- [すべて]
- [オープン]
- [解決済み]

① メモ: SupportAssist Enterprise でサポート ケースの状態が変更された場合は、ケース状態が ServiceNow インシデント管理状態モデルフローでサポートされている場合にのみ、ケース状態が OMISNOW で反映されます。[ServiceNow ドキュメント](#) を参照してください。



優先度または状態に基づいてインシデントを並べ替えるには、それぞれの列オプションを選択してから、並べ替えオプションを選択します。

インシデントは、OMISNOW によって SupportAssist Enterprise グループに自動的に割り当てられます。[割り当てグループ] フィールドおよび [割り当て先] フィールドに対して検索アイコンを使用することによって、別のグループやユーザーにインシデントを割り当てることができます。ケース同期タスクのステータスの詳細については、[システム ログ] > [システム ログ] > [アプリケーション ログ] で対応するログを表示します。ServiceNow でアプリケーション ログを表示するために必要なユーザー権限の詳細については、[必要なユーザー権限、p. 9] を参照してください。

メモ: ServiceNow 管理者であり、x_310922_omisnow.OMISNOW オペレーターの役割を担うユーザーが、SupportAssist Enterprise のインシデントを解決して終了することができます。

トピック：

- [インシデント優先度の変更](#)
- [SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの影響度と緊急性の値の変更](#)
- [特定インシデントの影響度と緊急性の値の変更](#)
- [複数インシデントの影響度と緊急性の値の変更](#)
- [インシデント管理：SupportAssist Enterprise プラグイン ケースのインシデントの表示と監視](#)

インシデント優先度の変更

ServiceNow では、インシデント優先度の値は、インシデントに割り当てられた影響値と緊急性の値に基づいて計算されます。デフォルトでは、影響値と緊急性の値は、SupportAssist Enterprise の接続プロファイルで「2 (中程度)」に設定されています。したがって、OpenManage Enterprise with ServiceNow (OMISNOW) では、すべてのインシデントに対して、優先度の値が「3 (中程度)」として計算されます。インシデントの優先度の値を変更する場合は、影響度と緊急性の値を変更する必要があります。

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルの影響度と緊急性の値の変更

SupportAssist Enterprise 接続プロファイルで影響度と緊急性の値を変更した場合、後続のインベントリー同期中に作成されるケースには新しい影響度と緊急性の値のセットが割り当てられます。

1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[接続プロファイル] で [SupportAssist Enterprise 接続プロファイル] を選択します。
2. [SAE 接続プロファイル] ページで、接続プロファイルをクリックします。
3. [SupportAssist Enterprise 接続プロファイル] ページで、影響度と緊急性の値を編集します。

特定インシデントの影響度と緊急性の値の変更

1. ナビゲーションフィルターに「Dell EMC OpenManage Integration」と入力してから、[サポート ケース] で次のいずれかを選択します。
 - [すべて]
 - [オープン]

- [解決済み]
2. 変更するケースをクリックします。
 3. [インシデント] ページで、インシデントの影響度と緊急性の値を変更します。

複数インシデントの影響度と緊急性の値の変更

1. ナビゲーションフィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[サポート ケース] で次のいずれかを選択します。
 - [すべて]
 - [オープン]
 - [解決済み]
2. [インシデント] ページで、次のいずれかを実行します。
 - すべてのインシデントの影響度と緊急性の値を変更するには、任意の列ヘッダーを右クリックして、[すべて更新] をクリックします。[インシデント] ページで、すべてのインシデントの影響度と緊急性の値を変更します。
 - 一部のケースの影響度と緊急性の値を変更するには、インシデントの横にあるチェック ボックスを選択し、任意の列ヘッダーを右クリックして、[選択項目をアップデート] をクリックします。[インシデント] ページで、インシデントの影響度と緊急性の値を変更します。

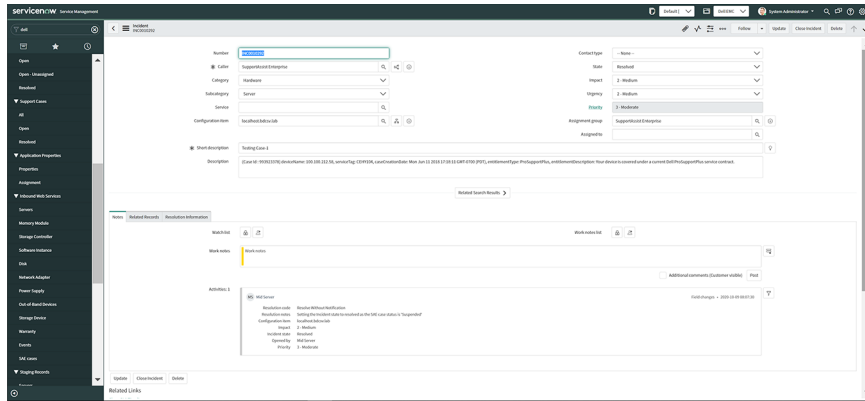
インシデント管理 : SupportAssist Enterprise プラグイン ケースのインシデントの表示と監視

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) には、SupportAssist Enterprise プラグインのすべてのケースを ServiceNow インスタンスに取得する機能があります。ケースを効率的に監視するために、すべてのケースに対応するインシデントが ServiceNow によって作成されます。

前提条件 :

- SupportAssist Enterprise プラグインを OpenManage Enterprise にインストールする必要があります。
 - ServiceNow で OpenManage Enterprise 接続プロファイルを追加するようにしてください。OME に SupportAssist プラグインがインストールされると、OpenManage エンタープライズ接続プロファイルにプラグインが反映されます。
1. ナビゲーションフィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[接続プロファイル] で [OpenManage Enterprise の接続プロファイル] を選択します。
 2. ケースを取得するには、リストから接続プロファイルを選択し、[選択した行のアクション] > [SAE プラグイン ケースの同期] を選択します。最初のオンデマンド SAE ケース同期の後、OMISNOW では、スケジュールされた SAE プラグイン ケースの同期を実行します。デフォルトでは、SAE プラグインのケース同期は、OME 接続プロファイルの下の SAE プラグイン ケースの収集フィールドで 15 分に設定されています。SAE プラグイン ケース収集スケジュールを変更するには、SAE ケース コレクション フィールドをアップデートします。
 3. ServiceNow によって作成されたインシデントを表示するには、ナビゲーション フィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力してから、[SupportAssist プラグイン/サポート ケース] で次のいずれかを選択します。
 - [すべて]
 - [オープン]
 - [解決済み]

メモ: SupportAssist Enterprise でサポート ケースの状態が変更された場合は、ケース状態が最初のオンデマンド SAE プラグイン ケース同期後に ServiceNow インシデント管理状態モデル フローでサポートされている場合에만、ケース状態が OMISNOW で反映されます。 [ServiceNow ドキュメント](#) を参照してください。



優先度または状態に基づいてインシデントを並べ替えるには、それぞれの列オプションを選択してから、並べ替えオプションを選択します。

インシデントは、OMISNOW によって SupportAssist Enterprise プラグイン グループに自動的に割り当てられます。[割り当てグループ] フィールドおよび [割り当て先] フィールドに対して検索アイコンを使用することによって、別のグループやユーザーにインシデントを割り当てることができます。ケース同期タスクのステータスの詳細については、[システム ログ] > [システム ログ] > [アプリケーション ログ] で対応するログを表示します。ServiceNow でアプリケーション ログを表示するために必要なユーザー権限の詳細については、「[必要なユーザー権限](#)、p. 9」を参照してください。

メモ: ServiceNow 管理者であり、x_310922_omisnow.OMISNOW オペレーターの役割を担うユーザーが、SupportAssist Enterprise のインシデントを解決して終了することができます。

プロパティ テーブル : フィールドの定義

表 3. プロパティ テーブル

フィールド	定義
イベント管理プラグイン	イベント管理プラグインを有効にすると、アラートがダッシュボードに表示されます。イベント管理プラグインがインストールされている場合、イベント管理プラグインを使用してインシデントが作成されます。その他の場合、イベントは、カスタム ServiceNow イベント管理プラグインを使用して作成されます。
並列キュー	デバイス インベントリ情報を取得するために並列で実行される外部通信チャンネル (ECC) キューの数を設定します。デフォルトでは、並列で実行できる ECC キュー数は 10 に設定されています。
基本インベントリ要求あたりのデバイス数	基本インベントリ要求タイプの ECC キューごとにフェッチされるデバイスの数を設定します。値はデフォルトでは 100 に設定されています。
詳細インベントリ要求あたりのデバイス数	詳細インベントリ要求タイプの ECC キューごとにフェッチされるデバイスの数を設定します。値はデフォルトでは 50 に設定されています。
変換マップの有効化/無効化	次の変換マップを有効化または無効化します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー、サーバー イベント、サーバー コンポーネント。詳細については、「サーバー コンポーネントの有効化または無効化」を参照してください。 2. シャーシ、シャーシ イベント、シャーシ コンポーネント。詳細については、「シャーシ コンポーネントの有効化または無効化」を参照してください。

メモ: スケジュールされたジョブの OpenManage Enterprise および SupportAssist Enterprise の名前の文字数の制限は 40 文字です。制限を超えると、名前全体は表示されません。

トラブルシューティング

サーバーおよびシャーシ コンポーネントを削除できません

説明: サーバーおよびシャーシのコンポーネントを削除しようとしているときに、ユーザーに問題が発生しています。

回避策: サーバーまたはシャーシを削除するには、まずコンポーネントを削除してからサーバーまたはシャーシを削除する必要があります。

インスタンスへのアプリケーションのインストール中にコミットエラーが発生する

説明: 権限の同期で遅延が発生したため、アップデートセット コミットの実行中にこのエラーが発生しています。

回避策: このシナリオでは、次のいずれかを実行します。

- インスタンスを解放し、新しいインスタンスを取得して、再試行する。
- アンインストールして、再試行する。

1.0 アップデートセットのテスト接続を実行すると、エラーメッセージが表示されます。

説明: 1.0 アップデートセットの Quebec インスタンスでテスト接続を実行すると、「Connection timeout during server operation」というエラーメッセージがユーザーに表示されます。

対策:

1. [システム定義] > [アプリケーション マネージャーのビジネス ルール] に移動します。
2. ファイラーで、以下を検索します。 DellEMC_OMEDeviceSync_InsertInTable
3. ビジネスルールを開き、[実行時期] タブをクリックします。
4. フィルターで、次の条件を追加します。
 - 名前が DellEMC_OME_DeviceSyncFrom で始まり、キューは入力されています。
5. 類似ルールをビジネス ルールに追加します DellEMC_OMEEventSync_InsertInTable
 - 名前が DellEMC_OME_EventSyncFrom で始まり、キューは入力されています。
6. ルールを次に追加します。 DellEMC_SAECaseSync_InsertInTable
 - 名前が DellEMC_SAE_CaseSyncFrom で始まり、キューは入力されています。
7. フィルターに条件を追加した後、[保存] をクリックしてテスト接続を実行します。

SSL 証明書チェック中のエラー メッセージ

説明: JAVA_HOME 環境変数を設定した後でも、SSL 証明書のチェック中にエラーが発生します。

回避策: サーバーを再起動して実行していることを確認します。

インベントリーの同期中に直面する問題

説明: 基本および詳細なインベントリー情報を同期できません

回避策 : [並列キュー] [基本インベントリ要求ごとのデバイス] [詳細インベントリ要求ごとのデバイス] の各プロパティはインベントリ同期に関連するものであり、ネットワーク障害が発生した場合にのみ変更する必要があります。それ以外の場合は、インベントリの同期に設定されたデフォルト値が機能します。

OpenManage Integration with ServiceNow に関する Dell EMC サポートへの問い合わせ

Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow 固有の問題について Dell EMC に連絡して、テクニカル サポートまたはカスタマー サービスを受けるには、以下を実行します。

1. ナビゲーション フィルターに「**Dell EMC OpenManage Integration**」と入力し、[連絡先モジュール] で [サポート連絡先] を選択します。

[Dell EMC 連絡先サポート] ページには、次の連絡先情報がリストされています。

- サポート営業時間：24 時間
- サポート営業日：毎日
- 連絡方法 - 電話：1 (800) 999-3355
- 連絡方法 - Web サイト：<https://www.dell.com/contactus>

2. Dell EMC に連絡するための推奨方法を選択してください。

Dell EMC へのお問い合わせ

Dell EMC では、オンラインおよび電話によるサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。

メモ: アクティブなインターネット接続がない場合は、ご購入時の納品書、出荷伝票、請求書、または Dell EMC 製品カタログで連絡先をご確認いただけます。

Dell EMC のセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. Dell.com/support にアクセスします。
2. ページの右下にあるリストで、国または地域を選択します。
3. [[サポートへのお問い合わせ]] をクリックして、該当するサポートリンクを選択します。

Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス

直接リンクを使用して Dell EMC サポート サイトに移動するか、検索エンジンを使用して、一連のシステム管理ツールに関連するサポート コンテンツにアクセスします。

- 直接リンク：
 - Dell EMC エンタープライズ システム管理および Dell EMC リモート エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/esmmanuals>
 - Dell EMC 仮想化ソリューション：<https://www.dell.com/SoftwareManuals>
 - Dell EMC OpenManage：<https://www.dell.com/openmanagemanuals>
 - iDRAC：<https://www.dell.com/idracmanuals>
 - Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement>
 - Dell EMC Serviceability Tools：<https://www.dell.com/serviceabilitytools>
- Dell EMC サポート サイト：
 1. <https://www.dell.com/support> にアクセスします。
 2. [すべての製品の参照] をクリックします。
 3. [すべての製品] ページで [ソフトウェア] をクリックして、次に必要なリンクをクリックします。
 4. 必要な製品をクリックして、必要なバージョンをクリックします。

検索エンジンを使用する場合は、検索ボックスにドキュメントの名前とバージョンを入力します。